

# 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果と今後の対策

市川三郷町立三珠中学校

本年度実施しました、「全国学力・学習状況調査」の本校の結果と今後の対策についてまとめましたので、ご報告いたします。

本調査は毎年マスコミ等にも取り上げられておりますが、あくまでも生徒一人一人の学力向上のために活用するものです。本調査の結果を踏まえて、本校生徒の学力がさらに向上するよう、指導法の工夫や授業改善等に組織的・計画的に取り組んでいく所存です。

今後とも本校教育に御理解と御協力をお願いいたします。

## 1 調査目的

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、その成果と課題を明らかにするとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

## 2 対象学年

- 国・公・私立学校の中学校3年生の全生徒

## 3 実施期日

- 令和5年4月18日(火) 「話すこと」テストは5月2日実施

## 4 調査内容

- ①教科に関する調査(国語・数学・英語の学力調査)
  - ・各教科において、身につけておくべき内容や実生活において活用できることが望ましい知識、技能
  - ・知識、技能を実生活に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価、改善する力
- ②質問紙調査(学習状況調査)
  - ・学習意欲、学習方法、自己有用感、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

## 5 本校の学力調査の結果と今後の対策について

### (1)結果

| 教科     | 国語 | 数学 | 理科 |
|--------|----|----|----|
| 全国との比較 | 同等 | 同等 | 同等 |

\*上記「全国との比較」は、総質問に対する正答率の平均について、下の基準により記述

|        |                          |
|--------|--------------------------|
| かなり上回る | 10ポイント以上、上回っている場合        |
| やや上回る  | 5ポイント以上～10ポイント未満上回っている場合 |
| 同等     | ±5ポイント内にある場合             |
| やや下回る  | 5ポイント以上～10ポイント未満下回っている場合 |
| かなり下回る | 10ポイント以上、下回っている場合        |

## (2)結果をもとにした今後の改善のための取り組み

| 国 語  |   |
|------|---|
| 【取組】 | ①言葉の意味を理解し、判断するための根拠に気づかせるには、教材の読解や作文での細かい指導が必要であると考えます。<br>②古典への理解を進める基礎的指導と共に作文を絡めた演習を増やしていくことが必要であると考えます。  |
| 数 学  |   |
| 【取組】 | ①引き続き、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ったり、複数の箱ひげ図からその集団のデータの特徴や傾向を読み取ったりしたことを、数学的な表現を用いて説明する力を伸ばせるよう、指導を継続します。<br>②2年生までに学んだ図形の定義や定理を、3年生の図形の学習に関連付けながら活用する指導を丁寧に行っていきます。<br>③自然数や比例・反比例、四分位範囲、累積度数などの用語については、授業中や家庭学習の課題として、これらに関する問題に取り組ませるようにして、理解を深める工夫を行います。 |
| 英 語  |   |
| 【取組】 | ①「書く」領域においては、書くことだけに終止せず個人や全体に共通することはフィードバックしていく必要がある。また、「話す」領域も同様だが、社会的な話題に関して、考えたことや感じたこと、その理由などを考えること、それらを書くための表現力をつけていく必要があります。そのために、「やりとり」において社会的な話題を扱ったり、各 Unit のゴールとして、自分の考えや意見などを話したり、書いたりする活動を仕組んでいきます。  |

## 6 学習状況(質問紙)調査について(別紙資料)

質問紙調査では、多くの質問が下のような回答を選ぶ方式になっています。

- |         |   |
|---------|---|
| ◇肯定的回答： | 「1 よくしている(よくあてはまる)」<br>「2 どちらかといえばしている(どちらかといえば、当てはまる)」 |
| ◆否定的回答： | 「3 あまりしていない(どちらかといえば、当てはまらない)」<br>「4 全くしていない(当てはまらない)」  |

これを受け「肯定的な回答」、「肯定的でない回答」という見方で分析を行いました。

### (1) 結果

#### I 生活習慣、規範意識、自己有用感、地域とのつながり等に関する質問

##### 【概況】

肯定的回答かそうでないか、を知る質問項目が33程ある中で、全ての質問内容で肯定的な回答率が全国を上回っていて、本校の生徒が前向きに日常の生活や学校生活を送っている様子がうかがえます。

##### 【内容別の様子】

##### (1)生活習慣・学習習慣・学校生活

《肯定的回答が全国比より高い項目》

- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」(+16.9)
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」(+11.9)

##### (2)自己肯定感・有用感・自己管理

《肯定的回答が全国比より高い項目》

- ・「将来の夢や目標を持っていますか」(+21.0)
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」(+12.7)

### (3) 規範意識

《肯定的回答が全国比より高い項目》

- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」(+11.7)

### (4) 他者との協働

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」。「友達関係に満足していますかの肯定的回答率は、どちらも90%を超えています。

### (5) 本や新聞との関わり

「新聞を読んでいますか」の肯定的回答率は15.6%、「読書は好きですか」は、81.2%で、読書については全国比、+15.2高い数値となっています。

### (6) 自然や地域、外国との関わり

9割を超える生徒が、地域に愛着を持ち、外国人と達になったり外国のことについて知りたいと考えています。地域の行事に積極的に参加する生徒は56.2%で、全国より+18の高い数値となっています。

### (7) ICT機器の活用

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと9割を超える生徒が考えています。1、2年生で受けた授業で、タブレットを使用した程度について、週3回以上が全国では6割であるのに対し、本校では4割と、まだ十分活用できていない様子がうかがえます。

### (8) 多様な学びの展開

生徒の回答から、多様な学びの展開・学習の活用・支援ができていると考えることができます。特に「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」全国比+22.2と高い数値となっています。

## 2 調査した教科(国語・数学・英語)に関する質問

【概況】25の質問のうち肯定的回答率が全国より低かったのは1項目のみで、生徒は3つの教科すべてに意欲を持って前向きに学習に臨む姿勢が見られました。

### (1) 国語

「国語の勉強は好きか」は肯定的評価72%で全国より10ポイントほど高い結果でした。

### (2) 数学

4つの質問項目すべて肯定的回答でした、特に次の質問で高い肯定的回答率でした。

- ・「数学の勉強は好きですか」(+21.4)
- ・「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」(+17.9)

### (3) 英語

「1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」のみ、肯定的回答が、全国比-0.1と下回りました。その他は、「英語の勉強は大切だと思いますか」が96.9%、「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」が100%と高い数値となっている。また、「英語の勉強は好きですか」も75%で、全国より+23となっています。

## 7 今後に向けて

### ○確かな学力

- ・引き続き生徒が意欲や興味をもって取り組める授業づくりを進めるとともに、生徒が主体と

なる授業、習得した知識や技能を活用して思考したり、表現や発表をしたり、話し合ったりしながら、深く思考する授業づくりを進めていきたいと考えます。

- ・ICT活用については、今年度の校内研のテーマとしても取り組んでいます。研究の成果を活かし、より授業で活用する場面を全ての教科で目指すと共に、個別最適な学び、協働的な学びにも取組を進めたいと考えます。
- ・家庭学習の習慣化については、現在の取組を継続しながら、効果的な取り組み方、ノートの使い方なども研究し生徒に提示していきたいと考えます。

#### ○ゆたかな心

- ・生活習慣については、引き続き家庭とも連携しながら望ましい生活習慣づくりを進めると同時に、生徒が自ら考え判断して生活習慣を考えるような働きかけをしていきたいと考えます。
- ・引き続き学校行事や生徒会活動を充実させる中で、生徒が自己肯定感、有用感をもてるよう取り組んでいきます。
- ・「いじめ」に対しては、引き続き「どんな理由があってもいけない」と指導を継続すると同時に、他者を敬う気持ちを道徳をはじめ様々な場面で育てていきます。
- ・現在進めているNIEの活動の取り組みは、生徒アンケート等を通してその効果を検証していきたいと考えます。朝読書、図書委員会の活動等を通して、生徒の読書に対する意識を高めていきたいと思います。

#### ○地域・家庭連携

- ・保護者との連携においては、引き続き通信やお便り、ホームページ等でこまめに学校の様子を伝えていきます。地域との連携においては、「みさと学」を着実に実施しながら内容のブラッシュアップを行いながら、5月に地域協働本部が設置されたことを受け、協働本部を通して、地域との連携した活動を推進していきたいと考えます。当面、1学年の郷土料理の調理実習補助、2学年の職業体験に取り組む予定です。このような活動を通し、生徒が地域の方と接し、地域に対しより愛着を持つ気持ちを育てていきたいと考えます。